

3月27日（金）、当所において開催された臨時議員総会で平成21年度事業計画、収支予算が承認されました。

## 「信頼される会議所」 「なくてはならない会議所」を目指して

わが国の経済は、アメリカの金融危機に端を発した世界経済の同時減速による輸出の減少、個人消費の更なる低迷などで景気が大きく後退し、中でも中小企業は、昨年来の仕入れ価格の高騰や乱高下による採算・資金繰りの悪化など極めて厳しい状況にあります。

しかしながら、私たちは、今回の不況を変革するための「絶好の機会」ととらえ、怯むことなく、したたかに、この「激動の時代」を生き抜くことが大切です。

ダーウィンの進化論の中に、「この世界で生き残ってきた動物は強い動物でもなく、賢い動物でもない。その時々で変化に対応できた動物だ」という言葉があります。

時代の大きな変革期の中で、商工会議所としても多様化するニーズに対して、これまで以上にきめ細かな対応ができるように、会員企業の声を真摯に受け止め、部会・委員会活動に反映してまいりたいと考えております。

平成21年度の当商工会議所の運営にあたっては、地域の経済と雇用を支える中小企業を活性化し、元気な企業を増やしていくことを目標に、商工会議所が地域の中核的存在としての本来の役割を果たし、会員のみならず地域全体から支持され信頼されるために、その的確な運営と併せて組織・財政面での強化を図り、さらには会員増強や各種会員サービス事業の充実にもこれまで以上に力を入れ、「会員になってよかった」と実感していただける商工会議所運営に全力で努めてまいります。

## 基 本 方 針

### 1. 地域活性化への貢献について

今後、わが国は、人口減少社会において、国内の市場縮小・労働力不足といった深刻な課題に直面することになりますが、こうした時代認識の上に立って、私たちは、グローバルな視点で足元をしっかりと固めて、一人ひとりが地域リーダーとしての責任を自覚し、本来の企業活動を通じて地域経済の活性化・豊かで住みよい郷土づくりに貢献することが期待されています。

このため、時代を先取りする勇氣ある政策提言を行い、政治・経済にとどまらず社会のあらゆる分野にわたって熱い思いをもって行動できる、常に時代をリードする商工会議所として機能していきたいと考えております。

以上のような観点から、会員をはじめとする地域社会の人々の信頼と合意を得る中で、商工会議所の活動基盤となる部会の活性化を図るとともに、委員会・特別委員会を随時開催し、地域の活性化と豊かなまちづくりのために、行政との連携を一層密にしながら、経済界の立場から務めてまいります。

### 2. 活力ある経済社会の実現を目指して

地域経済の活力を支えるのは中小企業であり、地域の伝統・文化創造の担い手でもある中小企業を元気にすることは、舞鶴全体を活性化することでもあります。

意欲ある中小企業が持ち前の機動性、柔軟性、創造性を発揮できる社会経済環境をつくらなくてはなりません。

このため、「人・物・情報」が交流するまちづくりの一環として、「舞鶴若狭自動車道・京都縦貫自動車道」の全線開通や、「国道27号バイパス西舞鶴道路」・「府道小倉西舞鶴線」の整備促進など、地方である「丹後・若狭地域」と「京阪神・中京地区」などの都市圏をスムーズに連絡する高速道路網の充実を急ぎ、北近畿全体の経済の活性化が図れるようにしなくてはなりません。また、22年春に供用開始される（仮称）和田ふ頭と併せて、京都舞鶴港全体の利活用を促進する取り組みも急がれます。

さらには、まちの賑わい創出のために、舞鶴の自然・歴史・港を活かして水辺とまちをつなぐ「舞鶴イ